

祝5周年

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第60号



ニュースレター「ほほえみ」は、今回で第60号を迎えました。毎月一回発行しておりますので、5年経過したこととなります。毎月発行することは、実はなかなか大変で、毎号、何を書こうかと思案しています。それでも継続してこられたのは、読者の皆様があつたのことと思います。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

楕円形の話

真理は円形にあらず、楕円形である。
一個の中心の周囲に描かるべきものにあらずして、
二個の中心の周囲に描かるべきものである。
.....

これは、内村鑑三の晩年の著作の中の一文です。この話を最初に聞いたのは、2011年8月に行われた、北東北がんプロフェッショナル養成プランの、外部評価及びシンポジウムの日です。樋野興夫先生からこの言葉を伺ったのですが、その際には、何らかの信念であつたり、先生(師)であつたり、一つのもの、一人の人を中心として回っていくのは正解ではないと伺いました。真理とは楕円の中心が二つあるように、一極ではないことを、この言葉から学んだのでした。しかし、暫く、あまり気にかけていませんでした。

その後、ご縁があつて、がん哲学外来市民学会の設立に関わつたのですが、この活動を進めていく上で、がん哲学外来を知らない方に、その内容を理解していただけるようにするにはどうしたら良いか、という議論がありました。しかし、思案はしたものの、すぐには良いアイデアが思い浮かびませんでした。第28号のニュースレターでも、この形を模索してしたのがわかります。

さらに年月が経過。2013年夏、仙台で第11回日本臨床腫瘍学会が開催された際に、「がん化学療法の質向上のための社会ネットワーク構築」というワークショップがあり、がん哲学外来に関して発表する機会を得ました。これが、がん診療に「楕円形の話」を適用することを、本格的にお示しする機会となりました。

がん診療を受けている方と接していると、治療というものが、いつの間にか目的化するというか、治療を続けていないと、安心できないということが生じます。他の目的のために治療していたはずが、いつしか、治療を受けていないと、毎日が成り立たないようになるという方が、少なからずあつたからです。

その時、もう一つの中心があつても良い。むしろ、その方が、人生を全うできるのではないかと考え、この図式を提案しました。幸い、理解しやすい、がん診療にもう一つの中心が必要だと思つたと、賛同していただける方も多くなっています。



第53回 日本癌治療学会

先月、京都市で第53回、日本癌治療学会が開催されました。個人的には参加できなかったのですが、6月まで勤務していた福田先生、当科で研修した平出先生、廣瀬先生が発表を行いました。秋の京都は、学会でなくとも行ってみたい場所ですね。自分で発表するときは、直前に急いで発表資料を作成して、滑り込み状態で学会に間に合わせるのですが、今回、発表していただいた先生方は事前に十分に準備されていました。

京都国際会議場は京都市内の北の方にあり、会場の敷地内に、全国高校駅伝の折り返し点があります。NHKの駅伝中継を見ると、学会で見慣れた場所なので、親近感が湧きます。地下鉄ではアクセスは良いのですが、バスだと時間がかかる場所であり、ここまで来る大変さが実感できます。



モンステラ

先日、リビングに置くために観葉植物の「モンステラ」を買いました。モンステラは、大きな葉に、深い切れ込みや穴の開が空いています。皆様も、一度はご覧になったこともあるかと思います。冬越しできるように、早速、手持ちの鉢に植え替えました。

その際には気が付かなかったのですが、葉の穴の中を通して、茎が伸びていました。偶然、新しい茎が伸びてくるときに、葉の穴の中を通して伸びたためだと思いましたが、不思議です。サトイモ科なのか、朝、起きてみると葉の先端に露がついています。葉の状況をみながら、控えめに水を遣っています。

我が家の観葉植物としては、この他に、大きくはないのですが、年数の経ったベンジャミンと、毎年、同じくらいのサイズで維持しているオリズルランを育てています。



MEMO

11月のがん化学療法科の予定

- | | |
|--------|------------------|
| 11月3日 | 文化の日 |
| 11月6日 | 柴田教授外来 |
| 11月20日 | 柴田教授外来 |
| | 新渡戸稲造記念メディカル・カフェ |
| 11月23日 | 勤労感謝の日 |

